

ICTで 授業 をDX！

学年 小学校4年 教科 社会 など

Googleスライドで学習者中心の授業を実現！

使用するアプリケーション等

・Google スライド
・Google Classroom
・kahoot! ・canva
・Google Jamboard

単元・題材 きょう土の発展につくす（木村九蔵）

本時の目標 木村九蔵が養蚕を発展させるために行った工夫を調べ、木村九蔵の努力や思いについて考え、表現する。（思考力・判断力・表現力等）

ICTを活用することで できること

- ・教科書以外からも必要に応じて児童が自力で情報を集め、知識を広げることができる。
- ・Googleスライドのリンク機能を使うことで教師の指示を大幅に減らし、学習者を効率的に活動に導き、十分に活動時間を確保できる。
- ・ゴールに到達する道筋を学習者が選択できるため、学習者が自分の好きに時間配分を決めて活動に意欲的に取り組むことができる。
- ・共有ドライブを活用することでいつでも全員のスライドを見ることができ、低位の児童も安心感をもって学習に臨むことができる。
- ・学習活動終了後の追加の活動を事前に多く用意することができ、高位の児童が待つことなくアウトプットする時間へと移行できる。
- ・文字入力だけでなく、写真撮影やスクリーンショット等も表現方法として選べるため、児童が自分の得意な手段を選ぶことができる。

DX前（ICTを使っていなかった頃は・・・）

1 導入

- ①教科書の写真から学習課題をたて、教科書を読みながら調べ学習をしていくことを示す。
- ②ノートかワークシートに調べて分かったことや気付いたこと、考えたことを書くことを伝える。

めあて：木村九蔵はどんな思いで、どんな工夫をしたのかな。

2 展開

- ①木村九蔵が養蚕を発展させるために行った工夫を調べ、ノートにまとめる。
 - 教科書を読み、該当部分をノートに書き写す。
 - 終わった児童は、時間がくるまで他のページを読むなどして待つ。
 - 活動の開始時から机のグループの形にし、常時話し合いながら進める。
- ②木村九蔵がどのような思いで努力をしたのかを友達と話し合う。
 - ノートを見せ合いながら、グループを作って考えを交流・共有する。
 - グループの話し合いの結果を受けて、全体で発表を行う。
- ③木村九蔵の思いについて、事実を基に関連付けて表現する。
 - 自分のノートに、全体の発表や板書を踏まえて考えを表現する。

3 まとめ

まとめ：木村九蔵は、たくさんの人に「早く蚕を育てて多くのまゆをとれる方法」と伝えたくて、競進社模範蚕室を作り、一派温暖育法を教えた。

- ① まとめをノートに書く。
- ②振り返りをノートに書く。

DX!

DX後（赤字はICT活用場面）

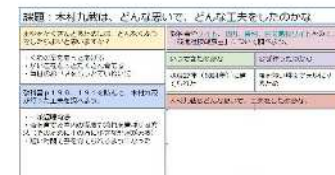
1 導入

- ① 教科書の写真から学習課題をたて、調べ学習をしていくことを示す。
 - 競進社模範蚕室の紹介動画や養蚕施設の動画を見て、自分たちが春にした飼育とは異なり、工夫がされていることに気づかせる。
- ② Googleスライドの活動の流れを読み、スライドの書きこめるところから調べて分かったことや気付いたこと、考えたことを書くことを伝える。

めあて：木村九蔵はどんな思いで、どんな工夫をしたのかな。

2 展開

- ① 木村九蔵が養蚕を発展させるために行った工夫を調べ、スライドにまとめる。
 - 自由に検索したり、教師が用意したリンクから必要な情報を集める。
 - 必要に応じてGoogle スライドを自分で増やし、画像や動画のスクリーンショットを貼り付ける。
 - 終わった児童は、「kahoot!の問題作り」か「canvaの単元新聞作成」を進める。
 - 活動の開始時から机のグループの形にし、常時話し合いながら進める。
 - 教師は支援が必要な児童を個別に支援し、ねらいとする学習内容の情報収集と理解を促す。



- ② 木村九蔵がどのような思いで努力をしたのかを友達と話し合う。

- 必要に応じて、Google ドライブから友達のGoogle スライドを見て、情報を参考にする。
- ※ Googleドライブの該当フォルダを事前に「閲覧可」にしておく。

- グループの話し合いの時間をとり、Google Jamboardに「木村九蔵の思い」を書く。
 - グループの話し合いの結果を受けて、全体で発表を行う。
- ③ 木村九蔵の思いについて、事実を基に関連付けて表現する。
 - 自分のGoogle スライドに、全体の発表や板書を踏まえて考えを表現する。



3 まとめ

まとめ：木村九蔵は、たくさんの人に「早く蚕を育てて多くのまゆをとれる方法」と伝えたくて、競進社模範蚕室を作り、一派温暖育法を教えた。

- ① まとめをGoogle スライドに書く。
- ② 振り返りをGoogle Formで提出する。

授業者から（成果・課題・留意点）

- 児童が手持無沙汰で待つ時間が全くなり、意欲をもって自分の学習を自由に進めるようになった。
- 言葉でうまくまとめられない児童も、写真や動画のスクリーンショットを用いて、友達に調べたことを伝えられるようになった。
- 情報共有したり一緒にkahootやcanva、jamboardを作成したりするために、一斉学習より友達と自然とやり取りする時間が増えた。
- ▼タイピングやアプリ活用の力を要する場面が多いため、年度当初から各アプリに触れる機会やタイピング時間を多く設けるとよい。
- ▼学習者が自由に進めていくため、ねらいとする学習内容が確実に理解できているかよく見届ける必要がある。